



イノシシの

富山県自然博物館ねいの里

わなによる捕獲

マニュアル

～イノシシを確実に捕獲するために～

当県でもイノシシの捕獲については富山県イノシシ管理計画を策定し、被害防除、生息環境管理、個体数管理を積極的に実施し、個体数の減少及び農作物被害の軽減を図り、イノシシによる農作物被害が極力少ない状態を目指しています。イノシシの捕獲については、ミスなく確実に捕獲する必要があります。

県内でのわなの捕獲状況

急増している捕獲数

県内でのイノシシの生息は現在、舟橋村を除く全市町に広がり、令和元年の捕獲数は過去最高の8,172頭と急増した後、豚熱の影響などもあり、令和5年では5,602頭となりました。猟法別では、箱わなでの捕獲数が最も多く、次いでくくりわなや囲いわなでの捕獲が行われています。冬季については、主に銃器での捕獲が行われています。

なお、捕獲については許可が必要ですので、ご注意ください。

わなの選定

どのようなわなを使用するか検討する

イノシシの捕獲を安全に行うために、まず箱わなや囲いわなを利用しましょう。できれば、子連れなどは成獣♀（親）も含めて一緒に捕獲することを目指しましょう。箱わなや囲いわなへ誘引できない警戒心の高い個体については、くくりわななどを利用しましょう。ただ、くくりわなの使用にあたっては、錯誤捕獲に注意し、自動撮影カメラで他の獣の生息状況の把握や放獣体制を確立した後で、使用するようにしてください。危険が伴いますので十分注意してください。

・各わな（箱わな・囲いわな・くくりわな）の特徴



	箱わな	囲いわな	くくりわな
捕獲可能頭数	1～数頭	1～数十頭	1頭
購入費用	数万円	数十万円	数千円
危険性	中	中	高
労力や管理など	移設には2人必要。通常、1m×2mの平坦な場所が必要。餌付け必要。	組立には4人程度が理想。数m×数mの平坦な場所が必要。餌付け必要。	1人で管理可能。数mの平坦な場所が必要ない。移設しやすい。

箱わなによる捕獲

根気よく確実な捕獲を目指す

誘引わなに関しては、箱わななどの中へいかに効率的にイノシシを餌付けし誘引するかにあります。わなへの誘引は、わなの設置場所や周辺に生息する個体（警戒心）の状況、周辺のわなの個数、今までの捕獲のされ方など諸条件により異なります。箱わなの設置・管理に関しては、下記のことにご注意してください。ミスなく確実な捕獲を目指しましょう。

箱わなの選定

県内では両扉が多く見られますが、確実に捕獲するため、片扉のわなも増えています。



捕獲場所の選定

農耕地周辺の林内などに設置し、加害個体の捕獲を目指します。農耕地は電気柵などで守られている地域で、多くの新しい痕跡や獣道の利用がある地域でわなを設置しましょう。事前に餌付けなどをし、イノシシが連続して確実に採食するか確認してください。自動撮影カメラなどを使用すると、より詳細に状況が把握できます。
⇒近くにわなが設置されていなくとも確認しましょう。

箱わなの選定のポイント！

- 格子のメッシュは10cm×10cm以下にする。
- 逃走防止のため、必ず扉のストッパーは装着する。
- 両扉の場合、大きなイノシシなどは、うまくわなの中へ入らず捕獲できないことがある。
- クマの錯誤捕獲防止のため、天井の中央部分に脱出口として30cm×30cmの穴をあける。クマが頻繁にわなへ来る場合は、しばらく餌付けをやめる。
- 蹴り糸やセンサーを設置し、高さは40~50cmくらいにする。親子連れは成獣も含めた捕獲を目指す。
- 扉がスムーズに落ちるか確認しておくこと。



イノシシが米ぬかを食べに来ると、きれいになくなります。まったく食べている気配がなければ、違う場所を探しましょう。

餌の選定

イノシシの捕獲には主に米ぬかが利用されています。その他、もち米やくす米、配合飼料（圧片トウモロコシなど）、サツマイモなどが利用されます。安価に継続的に利用できることを考えると、米ぬかが扱い易くなります。



警戒心の高い個体に関しては、どの餌でもわなの中へ、誘引することは難しいのが現実です。その他、サルの生息している地域では、米ぬかによる餌付けを奨励します。他の餌でサルを誘引しては最悪です。

わなの中へイノシシを誘引する（ここが重要！）

まず、箱わなの外や箱わなの中（最後に箱わなの中にくもいる）に餌をまく。蹴り糸やセンサーを設置し、高さは40~50cmくらいにしてください。わなの外には多くの量の餌をまかない。また、通常、箱わなから遠い餌の山からイノシシが食べるので、食べた所には再度、餌をまかないようにし、徐々にイノシシを箱わなへ近付ける。あくまで、わなの中へ誘引するために餌をまくことを意識する。一般的には箱わなの入口まで誘引できますが、それから箱わなの中へすぐ入る個体（多くの幼獣）と時間のかかる個体に分かります。ここから根気よくわなの中へ誘引しましょう。なお、近くに別の箱わながある場合はその周辺のわなの調整をしてください。

⇒わなの入口付近の餌付けは、個体により手法を変えます。わなの中に入らない個体の場合は、入口の餌を再度まき、駆け引きを続けてください。最初にわなに来てから、捕獲まで約45日間かかった事例もあります。まったくわなの中に入らない個体は、くくりわなによる捕獲に変更しましょう。なお、クマが来る場合は、一時期餌付けをやめましょう。

餌付けのポイント！

箱わなの外にどんぶり1杯分くらいの餌量の山を連続して置き、わなの中へイノシシを誘引する。食べた場所には再度、原則、餌をまかない。



・イノシシがわなに入り出す（ここが重要！）

わなの入口から奥へイノシシを誘導します。わなの扉を落とすセンサーや蹴り糸は40~50cmの高さになっているか確認し、幼獣（うり坊）で落ちないようにしてください。わなの中にイノシシが入り出せば、わなの奥のみに餌をまくように、蹴り糸に慣れさせます。

⇒蹴り糸はもちろん意識していますので、センサーなどを使用するのも1つの方法です。ただ、センサーも範囲をうまく設置しないと誤作動することがあるので、注意が必要です。

管理する人はできれば、同じ人がイノシシの行動にあわせ、誘引餌の配置を行いましょう。わなの中へ蹴り糸は40cm以上にし、親子連れの場合は最初から幼獣のみで捕獲しないようにしましょう。

蹴り糸の高さは40-50cmから始めましょう。

最初に幼獣が入るので蹴り糸を低くしていると、成獣を捕獲することができません。ただ、まったく箱わなへ入らない個体もいるため、その場合はくくりわななどの利用の検討をしてください。最初から、幼獣のみ捕獲をすると、一緒にいた親の個体はわなへ入らなくなります。



囲いわなによる捕獲 作業方法は箱わなと同じです。

イノシシを囲いわなへ誘引する方法は、箱わなと同じです。ですので、箱わなの誘引方法が基本となります。囲いわなの場合、イノシシの親子全頭の捕獲や2~3ファミリー群の捕獲も可能になります。なお、移動しやすい分解できる囲いわなの使用がおすすめです。

いろいろなセンサーの使用

囲いわなの捕獲では一度に最大限捕獲頭数を狙うために、いろいろなセンサーが用いられています。カメラを使用し、映像を見ながら遠隔で捕獲できるものや、頭数をカウントし捕獲するものなどあります。ただ、センサーの購入費用が高く、通信費の経費が必要になります。



くくりわなによる捕獲 わなを設置する前に

設置前に、地権者と地域の了解を得ること。（捕獲時、危険が伴いますので、見通しのいい場所にわなを設置してください）。

まず、わなを設置する前に地権者や地域の方々に了解を得るのですが、その危険性についてもしっかり伝えておくことが重要です。また、捕獲後の止めさしを想像し、わなの設置場所を選んでください。安全に止めさしができるのかや近くに一般の人が利用する道がないかなど確認することが重要です。

その他、錯誤捕獲の危険があり、錯誤捕獲時の放獣体制を構築できない場合は、くくりわなの使用はしないでください。イノシシの場合は、まず箱わなや囲いわなでの捕獲を優先してください。



止めさしを安全に出来る場所に設置する。

見通しが悪い場所で、止めさしするのは大変危険です。どうしても設置する場合は、草刈りを行い見通しを良くすること。

クマが生息する地域は、錯誤捕獲防止のため、「ベアーウォーク」の使用もご検討ください。



くくりわなもいろいろな形状のものがありますが、地面をあまり掘らずに設置しやすい、押しバネ式のものがお勧めです。なお、短径が12cm以下のものを使用してください。

くくりわなによる捕獲 わなを設置する場所が重要。

イノシシがよく利用している獣道にくくりわなを設置します。自動撮影カメラなどでイノシシの生息状況を把握し、設置するのもいいかと思われます。獣道と踏み板のフレームの長径側が平行になるようにわなを設置します。踏み板を埋めるため掘った土は、土のう袋の上に置き、その土で踏み板が隠れるように土を被せます。最後に必ず、安全に止めさしできる場所か確認してください。餌で誘引する方法もありますが、クマが生息している地域では餌で誘引しての捕獲は控えてください。基本的にイノシシの捕獲は、箱わなや囲いわなを優先し、どうしてもわなに入らない個体はくくりわなで捕獲してください。

あまり傾斜のない、イノシシがよく利用している獣道にくくりわなを設置する。

イノシシが必ず踏むと思われる場所を探す。獣道が細い所や木、木の根、障害物などで踏み場所が限定される場所を選ぶ。無ければ獣道に股木を置くなど、できるだけくくりわなの踏み板を踏むような状況にする。踏み板の部分掘った土などを土のう袋に置き、その土を利用し、くくりわなの設置前と変わらないように、うまく土を被せ復元する。この時に、踏み板の上にはスギ枝や太い枝などがのらないように注意する。空はじきの原因になります。湿地のような水が抜けない場所も設置には不向きです。



1. 急斜面には設置しない。

急斜面は捕獲時に反動が大きくなるほか、錯誤捕獲個体が怪我をする可能性がある。



2. よく利用している獣道に設置する。

イノシシがよく利用している獣道を探す。



3. わなの踏み板部分を掘る時に、その土を土のう袋に置く。

掘り起こした土はそのまま。地面に置かずに、土のう袋へ。



4. 踏み板のフレームの長径側を獣道と平行に設置（獣道上）

踏み跡がある場所やそこを踏むと考えられる場所に設置。



5. 根付けはしっかりとした木にシャクルでしっかり留める。

イノシシの捕獲の場合は太い木に根付けをしてください。



6. ワイヤーや踏み板部分を土のう袋に置いた土を利用し、元のよう復元する。

くくりわなの前後に股木の設置も検討。最後に標識を設置。



*木などで獣道が狭くなる場所もねらい目。

漠然と獣道にかけるよりも障害物などでイノシシが踏みやすい場所に設置する。



7. 注意喚起看板の設置

下記のことを必ず守ること！

- ワイヤーは直径4mm以上。
- 短径が12cm以下のもの。
- 締め付け防止金具があること。
- よりもどしがあること。
- わなに標識を設置する。

個体数管理 効率的なわなによる捕獲の推進

県内では、イノシシの捕獲にはこわなが主に用いられ、一部で囲いわなやくくりわなが使用されています。わなの特性をよく理解し、環境や設置場所の状況にあったわなを選択し、効率的なわなでの捕獲を目指しましょう。各種わなの管理ポイントは下記のとおりです。

(1) はこわな



両扉が多く見られますが、確実に捕獲するため、片扉のわなも増えています。はこわなの設置・管理に関しては、下記のことにご注意してください。

- 農耕地周辺の林内などに設置。加害個体の捕獲を目指す。
⇒遠くのイノシシより近くのイノシシの捕獲。
- まず、わなの設置予定場所に米ヌカをまく。
⇒イノシシが連続して採餌すればわなの設置を行う。誘引できない時はわなの設置場所を変更する。
- 我慢してわなの中へ誘引する。
⇒わなの中に誘引するように餌付け、わなの外に餌をまきすぎない。
- 同じ地域に複数台のわなが有る場合は管理する人も同じ人がベスト。
⇒同じ人がイノシシの行動にあわせ、誘引餌の配置を行う。
- 蹴り糸は40cm以上にし、親子連れの場合は幼獣のみで捕獲しない。
⇒幼獣のみで捕獲すると、はこわなに入らないイノシシが増える。
- 誘引餌は継続して使用できるもの。
⇒現状では、米ぬかが良く使用される。サルの生息する地域では特に米ぬかのみによること。なお、クマが誘引される場合は、一時期、餌付けを中止するなどしてください。

(2) 囲いわな



わなの中へ誘引して捕獲する方法は、基本的にはこわなと同じです。囲いわなは複数頭での捕獲が可能です。近年、簡易に移設できる囲いわなやICTゲートなどによる捕獲も行われています。

- 我慢してわなの中へ誘引する。
- ICTゲートなどにより、複数頭の捕獲が可能。
⇒はこわなと基本は同じ。成獣も含めて複数頭での捕獲を目指しましょう。
- 同じ地域のはこわなとの設置場所の選定を考える必要がある。
⇒できれば、周りにはこわなのない地域や新たな捕獲場所などに設置する。必ず、周りのはこわなの管理者と調整してください。
- 誘引餌はその地域に継続して使用できるもの。
⇒現状では米ヌカで十分と思われる。シカがいる地域ではイノシシの捕獲と併用で米ヌカの利用のほか、ヘーキューブなども使用されることがある。また、鉈塩などの使用も必要かと思われます。

(3) くくりわな



はこわなや囲いわなへ誘引できないスレ個体（はこわななどに入らない個体）の捕獲に使用します。もちろん、獣道に設置しての捕獲も可能ですが、錯誤捕獲などが無いように注意してください。

- はこわなへ入らないスレ個体などの通い道に設置し捕獲を目指す。
- 獣道に設置する場合は、自動撮影カメラなどにより、カモシカやクマなどが頻繁に利用していないか確認し、設置するようにしてください。太い獣道を見つけ、設置するのが理想です。
⇒錯誤捕獲の可能性もあるため、必ず放獣できる体制を構築してから、設置するようにしてください。また、止めさしも危険なため富山県が作成している「くくりわなによるイノシシ等の捕獲安全管理マニュアル」を参照してください。

いずれのわなの見回りも小まめに行い、その変化を把握し、迅速に対応できるようにしてください。止めさしだけでなく、イノシシの捕獲には危険が伴いますので、作業するときは十分に注意してください。また、必ず捕獲許可を受けてから、わなの設置を行い、標識の設置はもちろん、注意喚起看板の設置も行うようにしてください。